

2011（平成23）年度

# 事業報告書

2011（平成23）年4月1日から  
2012（平成24）年3月31日まで

## I 法人の概要

- 1. 真宗大谷学園存立の精神 ..... 2
- 2. 真宗大谷学園の沿革 ..... 4
- 3. 設置する学校・学部・学科等及び定員・学生生徒園児数の状況 ..... 5
- 4. 役員・教職員等の概要 ..... 6

## II 事業の概要

- 1. 大谷大学・大谷大学短期大学部 ..... 7
- 2. 九州大谷短期大学 ..... 9
- 3. 大谷高等学校・大谷中学校 ..... 11
- 4. 大谷幼稚園 ..... 12

## III 財務の概要

- 1. 2011（平成23）年度決算について ..... 14
- 2. 経年比較 ..... 16

学校法人 真宗大谷学園

# I 法人の概要

## 1. 真宗大谷学園存立の精神

(2010年12月22日 理事会・評議員会承認)

### 【設立の願い】

## 浄土真宗の精神を世界に開くことを使命とする

真宗大谷派（東本願寺）は、仏教の叡智に基づき、親鸞が明らかにした浄土真宗の精神を世界に開くために、真宗大谷学園※1を設立した。

すなわち、本学園は、高等教育、中等教育、幼児教育を実践する教育機関であり、豊かな人間性の養成と健全な人格の育成をめざして、教育と研究の事業を推進するものである。

### 【教育の理念】

## 人間をエゴイズムから解放する教育と研究

真宗大谷学園は、真宗の精神の研鑽の場として、1665年開設以来の長い伝統をもつ学寮を起源とする。明治期、本学園の礎を築いた清沢満之は、その志願を「真宗大学開校の辞」に明確に言い尽している。

本学は他の学校とは異りまして宗教学校なること、殊に仏教の中に於て浄土真宗の学場であります。即ち我々が信奉する本願他力の宗義に基きまして、我々に於て最大事件なる自己の信念の確立の上に、其信仰を他に伝へる、即ち自信教人信※2の誠を尽すべき人物を養成するのが、本学の特質であります。

清沢満之は、「自己とは何ぞや※3」という問いこそが、人間にとっての根本的課題であると表明した。それは、急速に近代化する時代の中で、人間が根底に持つエゴイズムから解放されなければ、互いに傷つけ合い、孤立へ向かうという、潜在的問題をいち早く見抜いたということである。この問いを共有し、学ぶ場が本学園である。

### 【教育の方針】

## 真の独立者として相互敬愛の心を有する人物を育成する

じしんきょうにんしん

自信教人信の誠を尽すべき人物の養成は、仏教の智慧のもとに、自らを問う中で、初めて他者と共にある自己に出会うことである。

そのような学びを本学園では「人間学」と名づける。

この「人間学」によって育つ相互敬愛の心を有する人物を「真の独立者」という。

それはすなわち親鸞の説く「同朋」の精神に立って生きることである。

※1 「真宗大谷学園」

この法人は、真宗の精神に則り、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、真宗大谷派の設立に係る教育機関を継承して、これを経営し維持することを目的とする。(真宗大谷学園寄附行為第4条)

※2 「自信教人信(じしんきょうにんしん)」

「自信教人信」とは、親鸞が主著『教行信証』において、善導の『往生礼讃』より引用した言葉である。教育(「教人信」)は、自己を知る(「自信」)ことにおいて成立する。「自己を知る」とは、我々が根底に持つエゴイズムの自覚である。それは、近代的理性のみを是とする“驕り”の文化への気づきでもある。「真宗の精神」は、このような人間凝視を可能とするものである。

それは教育の実践において、自己を問い続け、有限なる自己(理性の有限性)を再認識することで「共生」の世界に立つことである。このような実践者を、「自信教人信の誠を尽すべき人物」と称するのである。

※3 「自己とは何ぞや」

清沢満之は『臘扇記(ろうせんき)』において、古代ギリシャ以来の「汝自身を知れ」という人類の普遍的課題を仏教の智慧によって「自己とは何ぞや 是れ人世の根本的問題なり」と表現している。

## 2. 真宗大谷学園の沿革

- 1665/ 東本願寺が仏教の学問の場として京都東六条に学寮を創設。（大谷大学の前身）  
1755/ 学寮を高倉魚棚に移転し、高倉学寮と改称。  
1868/08/09 護法場を学寮外井波屋敷に付設し、真宗学の他に国学・儒学・天学・洋教を教授する。  
1873/08/27 高倉学寮を貫練場と改称し、常時開校の近代学校制へと歩む。  
1875/09/06 京都府下小教校を貫練場に併設開校。（大谷中・高等学校の前身）  
1877/03/09 京都府下小教校を京都小教校と改称。  
1879/06/08 貫練場を貫練教校と改称。  
1881/05/23 京都小教校を京都教校と改称。  
1882/12/28 貫練教校を大学寮と改称。  
1885/06/29 京都教校を大学寮兼学部へ属す。  
1888/03/30 京都府立尋常中学校を東本願寺が維持経営することとなり、大学寮兼学部を同校に併置し、新町出水北入に移転。  
1893/03/21 京都府立尋常中学校を京都府に返還し、従来の大学寮兼学部を大谷尋常中学校と改称。  
1894/09/01 大谷尋常中学校を真宗第一中学寮と改称し、現在地に移転。  
1896/06/05 大学寮を真宗大学・高倉大学寮とに分離し、真宗大学には本科・研究科を置き、専門的な大学として学制を整える。  
1896/08/25 真宗第一中学寮を真宗京都中学と改称。  
1901/10/13 真宗大学を東京巢鴨に移転し、学制に根本的改革を加え、真宗学・仏教学と共に哲学・史学・文学・語学の各課程を置く近代的な文科大学として開設。  
1911/10/13 真宗大学と高倉大学寮を合して真宗大谷大学と改称し、京都高倉魚棚にて開校。  
1912/03/20 東本願寺内に真宗教育財団設立。  
1913/09/15 真宗大谷大学を現在地に移転。  
1922/05/20 財団法人真宗教育財団の設立を文部省より認可。  
1922/05/20 真宗大谷大学を大谷大学と改称し、大学令による設立を文部省より認可。  
1923/02/16 真宗京都中学を大谷中学校と改称。  
1947/04/01 新制大谷中学校開設。1948/01/19設立認可。  
1948/04/01 新制大谷高等学校開設。1948/07/10設立認可。  
1949/02/21 新制大谷大学（文学部（仏教学科・哲学科・史文学科））設立認可。  
1950/03/14 大谷大学短期大学部（仏教科）設立認可。1950/04/01開設。  
1951/02/26 財団法人真宗教育財団の学校法人真宗大谷学園への組織変更を文部省より認可。  
1951/04/01 大谷高等学校商業科開設。  
1953/03/31 大谷大学大学院文学研究科修士課程（真宗学専攻・仏教学専攻）設置認可。1953/04/01開設。  
1954/03/20 大谷大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻・仏教文化専攻設置認可。1954/04/01開設。  
1955/03/30 大谷大学大学院文学研究科博士後期課程（真宗学専攻・仏教学専攻）設置認可。1955/04/01開設。  
1955/04/01 大谷中学校募集停止。  
1956/03/31 大谷大学大学院文学研究科博士後期課程哲学専攻・仏教文化専攻設置認可。1956/04/01開設。  
1960/04/01 大谷中学校募集再開。  
1962/12/18 大谷大学短期大学部国文科設置認可。1963/04/01開設。  
1965/04/01 大谷大学文学部史文学科を廃し、真宗学科・社会学科・史学科・文学科開設。  
1965/11/30 大谷幼稚園設立認可。1966/04/01開設。  
1966/01/25 大谷大学短期大学部幼児教育科設置認可。1966/04/01開設。  
1970/02/09 九州大谷短期大学（仏教学科・国文学科・幼児教育学科）設立認可。1970/04/01開設。  
1974/02/15 大谷高等学校商業科募集停止。1976/04/01廃止。  
1991/12/20 大谷大学短期大学部文化学科設置認可。1992/04/01開設。  
1992/04/01 大谷大学短期大学部国文科募集停止。1995/03/16廃止認可。  
1992/12/21 大谷大学文学部国際文化学科設置認可。1993/04/01開設。  
1993/04/01 大谷幼稚園に3歳児受け入れ開始。  
1995/04/01 九州大谷短期大学専攻科福祉専攻開設。  
1997/04/01 大谷中学校に女子受け入れ開始。  
1998/12/22 大谷大学大学院文学研究科修士課程社会学専攻・国際文化専攻設置認可。1999/04/01開設。  
1998/12/22 九州大谷短期大学福祉学科設置認可。1999/04/01開設。  
1999/10/22 大谷大学文学部人文情報学科設置認可。2000/04/01開設。  
2000/02/03 九州大谷短期大学国文学科の日本語コミュニケーション学科への名称変更認可。2000/04/01名称変更。  
2000/04/01 大谷高等学校に女子受け入れ開始。  
2000/12/21 大谷大学大学院文学研究科博士後期課程社会学専攻・国際文化専攻設置認可。2001/04/01開設。  
2005/04/01 九州大谷短期大学日本語コミュニケーション学科を表現学科へ名称変更。  
2006/04/01 大谷大学短期大学部幼児教育科を幼児教育保育科へ名称変更。  
2008/04/01 大谷大学文学部史学科を歴史学科へ名称変更。  
2008/04/30 大谷大学文学部教育・心理学科設置届出。2009/04/01開設。  
2009/04/01 大谷大学短期大学部文化学科募集停止。2011/05/20廃止届出。

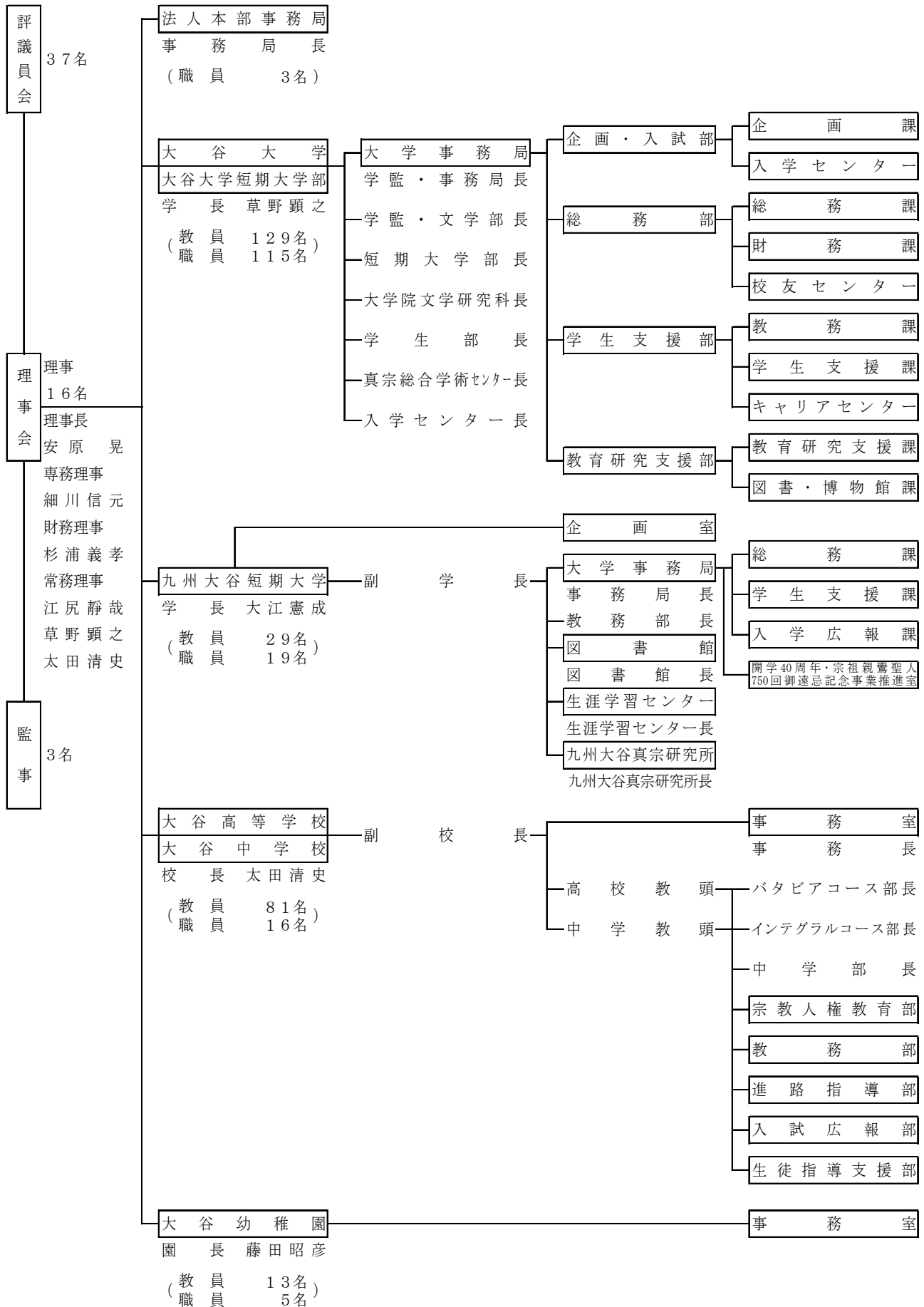
### 3. 設置する学校・学部・学科等及び定員・学生生徒園児数の状況

	入学定員	入学者数	収容定員	学 生 数	
大 谷 大 学	868	895	3,234	3,621	
大学院 文学研究科	108	47	234	139	
修士課程(博士前期課程)	90	44	180	103	
真宗学専攻	20	22	40	45	
仏教学専攻	20	9	40	18	
哲学専攻(哲学コース、教育学コース)	10	3	20	7	
社会学専攻	10	1	20	3	
仏教文化専攻(日本文化コース、東洋文化コース)	20	3	40	17	
国際文化専攻	10	6	20	13	
博士後期課程	18	3	54	36	
真宗学専攻	3	2	9	11	
仏教学専攻	3	1	9	8	
哲学専攻(哲学コース、教育学コース)	3	0	9	3	
社会学専攻	3	0	9	0	
仏教文化専攻(日本文化コース、東洋文化コース)	3	0	9	13	
国際文化専攻	3	0	9	1	
文 学 部	760	848	3,000	3,482	
真宗学科(真宗学コース)	70	71	280	348	
仏教学科(インドコース、チベットコース、中国コース、日本コース)	60	59	240	264	
哲学科(西洋哲学・日本哲学コース、倫理学・人間関係学コース、宗教学・死生学コース)	60	73	250	285	
社会学科(現代社会学コース、文化人類学コース、社会福祉学コース)	100	124	450	554	
歴史学科(日本史コース、東洋史コース、歴史ミュージアムコース、交流アジアコース)	100	113	400	458	
文学科(国文学コース、中国文学コース、英文学コース、ドイツ文学コース)	70	76	280	348	
国際文化学科(現代アジアコース、欧米文化コース)	100	113	400	443	
人文情報学科(情報デザインコース、メディアクリエイターコース、情報文化コース)	100	111	400	457	
教育・心理学科(教育学コース、心理学コース)	100	108	300	325	
大谷大学短期大学部	120	109	240	216	
仏教科(人間とこころコース、実践仏教コース)	40	24	80	49	
幼児教育保育科	80	85	160	167	
九州大谷短期大学	225	227	420	417	
仏教学科	10	8	20	18	
表現学科(演劇放送フィールド、情報司書フィールド)	50	57	100	120	
幼児教育学科(幼児教育コース、児童福祉・心理コース)	100	111	200	192	
福祉学科	35	32	70	68	
専攻科福祉専攻	30	19	30	19	
	募集定員	入学者数	収容定員	生徒・園児数	
大谷高等学校 全日制課程 普通科 (バタビアコース(マスタークラス、コアクラス)、インテグラルコース)	385	397	1,170	997	
大谷中学校 (バタビアコース(マスターJrクラス、コアJrクラス))	105	62	315	234	
大谷幼稚園	90	63	250	176	
(注) ①学生・生徒・園児数は2011年5月1日現在数。②高等学校以下の収容定員は募集定員を元に算出。	合計	1,793	1,753	5,629	5,661

#### 4. 役員・教職員等の概要

(教職員数は2011年5月1日現在で常勤の数)

(理事・監事・評議員は2012年3月31日現在)



## Ⅱ 事業の概要

### 1. 大谷大学・大谷大学短期大学部

#### 主要な事業

グランドデザインの策定と学内外への発信

2011年10月13日開学記念式典において大谷大学が向こう10年間に取り組む内容、そして、その決意を「グランドデザイン」として世に表明しました。

この「グランドデザイン」は「真宗大谷学園存立の精神」の下、「仏教精神に基づき、社会を主体的に生きることのできる人物を育成する」ことを目的として、「教育」「学生支援」「研究」「社会貢献」「管理運営」の5つの方針からなります。具体的には、10年間で3期に区分し各学科・委員会・事務局と大学構成員全てがそれぞれの立場で、具体的な行動計画を検討・立案し遂行することとなります。

#### 教育及び学生支援に関する事業

##### ①カリキュラムの点検、見直し

教務部会において、初年次教育・セット科目などのカリキュラムの見直し、及び副専攻制の導入を含めたカリキュラム改編を2013年4月から開始することを目指して検討を進めました。

副専攻制の導入においては、入学した学科の専門科目の学習のみならず、他の学科の専門科目も学習し、幅広い教養と学びを身につけることを目的としています。副専攻の種類については、教育・心理学科を除く全ての学科から、魅力のあるテーマと科目を提供することで準備を進めます。

また、セット科目を、グランドデザインに則した4つの分野の中から各自の学術的な興味・関心に見合う専門科目を自由に選択し、学修する形に変更することにしました。具体的には、語学力を高めるとともに多文化への理解や国際的なコミュニケーション能力の涵養を目指した「コミュニケーション系」、社会で貢献し活躍するための基盤づくりを目指した「キャリア形成系」、自らを取り巻く自然環境を知り、命やこころを見つめることを目指した「自然生命系」、歴史と文化をグローバルな視野から深めることを目指した「歴史文化系」の4つの分野のそれぞれから既定単位を修得することを必修とする形に改編する予定で進めます。

##### ②教職支援センターの取り組み

教員を目指す学生への履修相談だけではなく、履修状況を踏まえたボランティア活動の支援や採用試験対策講習などについても、前年度までに培ってきたノウハウや教職アドバイザーによる的確な助言・サポートを行いました。

ボランティア活動には、幼稚園・小学校・中学校約80校に、のべ約250名の学生が参加しました。

地域連携事業では、地域の子どもたちを対象とした講座「おおたにキッズキャンパス」を開催しました。講座は「ペン立て・小物入れをつくろう」(写真)など、6講座を開講しました。



##### ③国際化教育の取り組み

中国、インド、フランスへ、語学研修や文化研修等で67名の学生を派遣しました。

2011年10月13日に発表された本学のグランドデザイン<研究の英語化が進む「仏教学」について、英語で発信し、英語で学ぶ環境を整備することによって、国際的に「存在感」のある「仏教」教育実現>を実現するひとつの機会として、2009年度から毎年エトヴェシ・ロラード大学で本学教員が行っている英語による仏教に関する集中講義を、本学博士後期課程の学生2名が聴講する企画をグローバルスクエア主催で今年度初めて実施しました。講義の聴講に加え、学生は現地学生との交流やエトヴェシ・ロラード大学や、現地学生の仏教学の学びの現状などの聞き取りを行いました。

#### ④課外活動活性化に対する支援

2011 年度の補助金内容を見直し、説明を行ったところ、例年よりも補助金申請や関連する相談が増え、補助金執行率も増加し、積極的な課外活動への取り組みにつながりました。

また、東日本大震災後、学生会を中心に各種行事における義援金の募金活動を行いました。

ボランティア活動として、有志による東日本大震災復興ボランティアを計 5 回現地で行いました。大学としてもスクールバスの使用や募集活動などの支援を行いました。活動内容は学園祭において参加学生が展示で紹介しました。

#### ⑤学生のニーズや適性に応じた就職支援

採用実績や求人依頼のある企業に対する「人材ニーズ調査」を実施しました。調査結果は、調査委託会社より「結果報告レポート」として提出されキャリア部会委員内で情報共有しました。

就職ガイダンスや各種講習などキャリア支援プログラムについては、指導教員にも学生への周知協力を得ながら実施しました。あわせて、学生の就職活動の進捗状況を共有することにより連携を強化しました。また、保護者との連携を図るために、現在の就職環境や本学のキャリアサポートプログラム等を紹介する『保護者のための就職ガイドブック』を編集するとともに、全国父母兄弟懇談会において「就職支援説明会」を実施しました。

### 学術及び研究に関する事業

#### ①学位授与

優れた研究業績をまとめ、博士の学位申請を行った者の中から厳密な審査を経て、2011 年度は課程博士 8 名、論文博士 3 名、合計 11 名に対して博士（文学）を授与しました。

#### ②真宗総合研究所の研究

大学が主体となり、組織として責任を果たす共同研究（特定研究・指定研究）は、その中心的研究となります。今年度は (1)「建学の精神」教育推進研究を大学として最も重要な研究課題として「特定研究」に指定し、学長を研究代表者として取り組みました。その他、指定研究は (2)国際仏教研究 (3)西藏文献研究 (4)真宗同朋会運動研究を推進し、資料室として「大谷大学史資料室」と「東本願寺海外布教資料室」「親鸞関係文献目録資料室」「デジタル・アーカイブ資料室」の 4 件、一般研究として採択された共同研究 7 件、個人研究 15 件の研究プロジェクトを推進しました。

#### ③外部資金による研究活動

本学では、真宗総合研究所を中心に外部資金による研究活動の推進に取り組んでいます。2011 年度科学研究費補助金の採択結果は、本学教員を研究代表者とする研究では、基盤研究が 8 件、若手研究が 5 件、研究活動スタート支援 3 件（継続分を含む）でした。また、12 名の教員が科学研究費補助金の研究分担者として他機関の研究代表者と共に活躍しています。

その他に、本学教員と株式会社 KDDI 研究所とのインターネットの通信品質についての共同研究が 3 年目の最終年度となりましたが、人文情報学科の学生にとっても、産学共同研究としての第一歩を踏み出すことができ、今後につながる大きな成果となりました。

### 組織及び施設に関する事業

#### ①学内禁煙の実施

2011 年度から学内禁煙を実施し、各種の取り組みなどを行いました。(1)スモーキングエリアを各キャンパス 1 ヶ所としました。(2)学生会及び職員によるマナー向上キャンペーンを行いました。(3)学内禁煙を周知するティッシュやマナーに関するリーフレットを配布や学内禁煙と書かれた「のぼり」や「横断幕」を設置しました。

#### ②省エネルギー対策

学内の省エネに関する啓発活動と取り組みについて、クールビズ、ウォームビズなど大学全体での取り組み、昼休み消灯など各部署での取り組みや、個人で取り組める内容を整理し、推進しました。

なお、年度末には、烏丸西側キャンパス内の南向きに位置する教室・事務室の窓に熱線遮蔽フィルムを貼付し、冷房時の熱線透過と暖房時の暖気放出を抑制する効果を向上させるべく工事を実施しました。

### 社会への開放

#### ①公開講座の開講

2011 年度は、開放セミナー 6 講座、紫明講座 7 講座、京カレッジ特別コース 1 講座（大学コンソーシアム京都へ提供）を開催しました。

2010 年度前期で終了した「シリーズ大乘仏教のあゆみ」が好評であったことから、2011 年度からも複数年かけて一つのテーマに取り組める連続講座を企画し、前期に「シリーズ浄土三部経を読む」（受講者数 153 名）、後期に「シリーズ世界



の仏教」(受講者数 125 名)を開講しました。

また、2月26日に、京都創生 PR 事業「京あるき in 東京 2012」(主催:京都市)での「京都の大学による特別講座」に 1 講座(「絵伝を読み解く 一親鸞聖人四幅絵伝一」)を提供し、本学初の東京での公開講座を行いました。

本学主催の地域交流事業については、2月29日と3月14日に大谷幼稚園にて大谷大学幼稚園開放セミナーを合計 2 講座開講しました。

## ②博物館

毎年、年 1 回の特別展と 4 回の企画展を実施しています。本館では、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を迎えるにあたり、2010 年から 2012 年の 3 年連続で親鸞聖人をテーマとする展示を企画しました。その 2 年目である今年度特別展では、「親鸞 一真宗本廟の歴史」と題し、宗祖の教えを絶えることなく守り続けた真宗本廟(東本願寺)の歴史について、関係の宝法物を真宗大谷派ほか関係機関からも借用し展示しました。

## 2. 九州大谷短期大学

### 主要な事業

#### ①真宗大谷学園存立の精神に基づくグランドデザイン(以下 GD)の策定

4 月に企画室を所管とし、GD 検討チームを設置して全学的な GD 策定体制を構築しました。

GD 検討チームを中心に全学にて検討し、10月12日の理事会・評議員会にて「九州大谷短期大学グランドデザイン」として報告しました。

その後、GD を基軸として、各部署において経営戦略実施項目を検討。併せて 2012 年度の事業計画、予算に反映させ、「九州大谷グランドデザイン[2012 年度版]」「九州大谷グランドデザイン経営戦略実施計画[2012 年度版]」を策定し来年度より実施します。

#### ②開学 40 周年・宗祖親鸞聖人 750 回御遠忌事業への取り組み



○音楽劇「愚禿釋親鸞～本願に帰す～」を上演  
御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きる」の問いかけに応えるべく、音楽劇「愚禿釋親鸞～本願に帰す～」を上演しました。(写真)  
2011 年 5 月、本学公演[大谷講堂(全 12 回)]

並びに、京都公演[京都市京都会館(昼夜 2 回)]延べ来場者数は 5,800 名を超え、高い評価を得ました。

#### ○九州大谷短期大学バスケットボール・バレーボール高等学校招待親善試合

近隣地域の高等学校を招待し施設公開と、学生募集の一環として継続されてきた行事ですが、今年度は開学 40 周年を記念した特別プログラムとして 10 月に実施し、延べ人数 307 名という多数の参加を得ました。

#### ○「宗祖親鸞聖人 750 回御遠忌法要・大学報恩講」

本学は、建学理念に基づいて、開学以来、毎年平常の授業期間中に毎月一度の御命日勤行を行い、それらの総括として 12 月の第一水曜日に大学報恩講を実施してきました。今年度は記念行事として音楽法要形式で実施し、長崎教区から長崎のアンサンブル浩々、久留米教区からは八女市蓮の会、久留米市蓮華会、そして、本学の九州大谷合唱団員が、歌をリードしつつ全員で音楽法要をお勤めしました。

実施期日:12月7日(水)

内 容:音楽法要形式

勤行調声:大江憲成学長

指 揮:虻川圭實教授

記念講話:真城義麿氏(前大谷中高等学校長)

講 題:「いのち丸ごと認める世界」

#### ○生涯学習センター「学び三昧」

記念事業としてオープンカレッジ受講生及び近隣地域に本学各学科の専門分野における学びの楽しさを紹介し、親睦と交流の場になるように開催(12月11日)し、34名の参加がありました。

## 教育・研究及び学生支援に関する事業

### ①学生支援体制の充実

学生支援充実のために、学生支援課を中心とした組織的な支援体制を整え以下の取り組みを推進しました。

- ・担任制（クラス担当者会を基軸）
- ・学生生活調査実施。
- ・オフィスアワー実施。
- ・授業評価実施。
- ・学生相談の充実。
- ・進路就職支援の充実。
- ・キャリアデザイン（基礎科目 [必修]）開講。

### ②幼児教育学科の募集力強化とそのためのカリキュラム実施・検証

2010 年度に策定された「幼児教育学科の募集力強化」に基づき、今年度以下の具体策が実施されました。

- ・プレイパーク実施。
- ・体験実践カリキュラムとして保育課程論、保育実践演習（現職の幼稚園教諭が講師）開講。
- ・浄土真宗の教えの実践としての保育のあり方を探求するために、「九州大谷真宗保育研究会」の設立を公表し、次年度に本格始動予定。
- ・表現実践カリキュラムとして、幼児教育福祉学会の内容を見直し、12 月に「第 1 回遊びと表現発表会」を実施しました。

## 組織・人事、施設・設備及び財務に関する事業

### ①活力ある組織体制の充実

#### ○運営組織再編の検証・改善

2010 年度より実施された運営組織再編に関して全学研修会において検証を行い、業務改善を図りました。同時に、この検証によって明らかとなった課題は、ランドデザインに反映させるべく検討を行いました。

#### ○職員の意識改革（SD）

FSD 研修を導入し以下のとおり実施しました。

- ・「カルト問題と私たち」  
10 月 5 日 講師：四衢 亮 氏  
11 月 17 日 講師：瓜生 崇 氏
- ・「自殺企図及び自傷行為における緊急支援」  
2 月 1 日 講師：四ヶ所京子氏

#### ○全学研修会

8 月 25 日「職員力の向上と教・職協働意識の高揚を図るには」

3 月 16 日「現状におけるあるべき教育の質を問う」

### ②記念事業募金

目標総額 2 億 1 千 500 万円（記念事業予算では 1 億 5,400 万円）に対して、2012 年 3 月末現在、2 億 6 千万円を超える寄付を頂いた。九州連区内では、各教区の事情に合わせて「募財委員会」が設置され、多大な尽力を頂きました。

### ③施設整備計画の推進

東日本大震災の影響で、工期を半年遅らせ、12 月から 3 月まで耐震補強・改修ともに実施し、2012 年 4 月 1 日無事に引き渡しを終えました。

### ④財務改善基本方針の策定

GD 策定に連動して、2012 年度事業計画並びに予算編成体制を再構築しました。

財務基盤の強化として、単年度における期末手当、5 年間の基準とした昇給幅の見直しを行いました。さらに、GD に基づき、「人件費依存率」「教育研究費比率」「帰属収支差額比率」の改善を達成目標に置き、具体的な教育研究体制、管理運営体制全般の見直しを適宜行い、財務改善基本方針として、策定する予定である。

## その他の取組

### ①生涯学習センター

2011 年度オープンカレッジは、33 講座 1 相談室を設定し、29 講座開講し、延べ受講者数は 475 名（子ども相談室を除く）となっています。

### ②学生募集力の強化

#### ○オープンキャンパスの充実

計 6 回のオープンキャンパスを実施。特に学生スタッフと参加高校生とのコミュニケーションを図るよう指導しました。参加人数については実施日の天候不良もあり全体の参加者数は昨年比 41 名減の 409 名となりましたが、来年度に向けて内容の充実を図ります。

#### ○高校に対する効果的な募集活動

近隣校、重点校を再設定し、効果的な高校訪問を目指した。また、高校毎の進学説明会、提携校における模擬授業等を積極的に行いました。

#### ○寺院・同窓会との連携

寺院推薦の定着を目指し、寺院訪問を実施しました。

#### ○マスコミや IT を活用した広報

9 月にホームページをリニューアルし、各課・学科においての迅速な更新が可能になり、より充実した情報サービスが提供可能になりました。

### ③九州大谷真宗研究所の事業推進

#### ○教化講習会の実施

第1期教化講習会が2年目のプログラムを終え、15名が修了し、今後の研修員制度実施の足がかりとなりました。

○第6回真宗シンポジウムの開催

テーマ：「今、なぜ真宗保育なのか」

日時：2011年12月23日

④学長 GP

教育内容の発展と学生募集力のさらなる強化を

促進し、チャレンジ精神を持って新規事業への企画立案をできるように、「学長 GP」をスタートさせた。

初年度は表現学科から申請された「ハイスクールシアターin 大谷」が採択実施された。

「ハイスクールシアターin 大谷」

[2011年12月23日] 参加高校は4校、参加者延べ人数は200名を超えた。

### 3. 大谷高等学校・大谷中学校

#### 主要な事業

140周年（2015年）を目指した施設整備及び既存施設の耐震化対応

中長期計画の承認を受けて、大規模修繕計画を考える改修委員会発足に向け準備ができました。

改修予定をしていたグラウンド西側金網の取替は、プール棟屋根の損傷の方が緊急を要することとなったので、こちらの修繕を行い、グラウンド西側金網の取替は次年度に行うことにしました。

#### 教育及び生徒支援に関する事業

①生徒募集の再構築

外部募集定員の中学70名、高校280名に対して、中学72名（マスターJr 25名1クラス・コアJr 47名2クラス）、高校446名（内部進学91名、外部定着355名、マスター55名2クラス・コア161名4クラス・インテグラル230名6クラス）と定員充足が達成できました。

②生徒のニーズにあった高等教育への道づくり

バタヒアコースにおいては、学習力の向上に向けて、マスタークラスに加え、コアクラスにおいても長期休業中の講習の必修化などに取り組み、特に高校3年生の3学期にはセンター対策・私立大学志望者対象講習・国公立大学二次試験対策講座及び過去問対策個別指導を行い、今年度も国公立大学合格者が50名を越えました。

インテグラルコースにおいては、指定校・協定校推薦での進路決定者は前年までに比して減少しました（23年度は約80名にとどまった）。それに対して、AO・公募制・一般入試＝いわゆる自力受験での進路決定者は前年比大きく増加しました（23年度は約55名にアップ）。これらは、担任による進路指導の充実と各教科担当者による個別指導等の成果によるものと考えられます。また、23年度より実施した3学期の進路未決定者に対

する教科指導も効果があったと思われます。

EDUについては新たな取り組みを企画し、一部見直しを図ったことにより、主体的な進路学習へ繋げていくことができました。

高校3年生についてはコースの枠を越えた形で進路先に応じた取り組みを行いました。進路決定者には大学の教員を講師に招いて大学での学び方の講義を実施、国公立受験者へは、センター対策及び二次対策としての個別指導をより充実して実施しました。また私学受験対策として各大学に応じた講座を開設しました。その結果、難関校への進学者を増やすことができました。

③海外との国際交流

希望者対象のニュージーランド研修は8/1～8/18で昨年同様ファンガレイ高校を交流校として実施し、高校1年生の21名が参加しました。

高校2年生対象の台湾研修旅行は2年目でしたが、初年度よりも行程を充実させた形で実施しました。内容としては、観光地訪問として「九份」・「孔子廟」を新たに加え、「京劇」観劇も実施しました。また、学校交流として「国立海山高級工業職業学校」と充実した交流会ができました。更に、B&Sプログラム（現地大学生をガイドとする班別自主研修）を継続して実施し、生徒自身が行程表を作成し台北市内を散策しながら異文化体験を行いました。

④生徒指導の徹底

校門指導や頭髪・服装指導や警察と連携した啓発活動を通じて「規範意識」や「公共のマナー意識」を高めることに努めています。また、指定クラブによる校外清掃活動や生徒会の募金活動などを通じて社会や地域に貢献する態度を養うことができました。

### その他の重要な事業

#### ①学校評価の実施と公開

授業アンケート、保護者アンケートにおいては、例年概ね高い評価を得ていますが、今年度は前年度を上回る評価を得ました。

高校では通学範囲が広域にわたるため、地域懇談会を今年度も7つの会場で実施し、中学では本校で学年の枠を取り払った懇談会を持ち、学校に対する声を直接聞く場としました。

#### ②ボランティア活動による地域社会への貢献

東日本大震災直後から1年間にわたる募金活動を、街頭や本山前で行いました。その結果、去る3月28日に本山にてハレジャ代表生徒と生徒会長が救援金(3,134,635円)を手渡しました。**(写真)**これで終わりになることなく、息の長い救援活動を、継続していきたいと考えています。また、昨年度から行っている、パキスタンへの靴の寄贈も引き続き本校吹奏楽部の協力の下、継続することができました。



#### ③同窓会組織のさらなる充実と地域交流の促進

本年度は10月1日にハイアットリージェンシー京都にて開催しました。総会及び懇親会は前年並みの卒業生43名・来賓19名・教職員31名の計91名が出席しました。

今年度の成人式は1月7日に開催し、過去最多の129名が出席しました。

## 4. 大谷幼稚園

### 主要な事業

①本年度は、2011年12月20日に新園舎棟部分の引き渡しを受けました。2012年1月6日には木仏御本尊を奉安して御移徙法要を厳修しました。**(写真)**2012年1月からは、新園舎での保育を開始しました。



②「真宗大谷学園存立の精神」を受けて「大谷幼稚園運営委員会」において本園の運営体制についてのグランドデザイン策定の検討を積み重ねました。

### 保育について

#### ①「幼稚園教育要領」に基づく保育実践

幼稚園教育要領に準拠し、仏教の精神に立脚した保育計画を立て、当年度の事業を遂行しました。

日常の保育を確実に実施するとともに、幼児の体験世界を広げる様々な行事を執り行いました。

主要な行事には以下のようなことが挙げられます。

仏教行事として、花まつり(5月)、彼岸会(9月)、幼稚園報恩講(11月)、成道会(12月)、涅槃会(2月)を執行しました。また、5月には、本山参拝を年中児と年長児がそれぞれの日程で、参拝をさせていただきました。

そして園外保育として、各年齢児にふさわしい場を選定し安全確保に最大限の配慮を行いながら実施しています。さらに、日常の保育活動をそれぞれに総括する行事として、小運動会(6月)、運動会(10月)、制作展(11月)、生活発表会(2月)を行い、多数の保護者の参観を得ました。

また、大学教育との連携を図る一環として、幼稚園教育実習をはじめ、大学探検隊(年長児・6月)、大谷大学短期大学部幼児教育保育科第1学

年学生の幼稚園見学、短期大学部幼児教育保育科「幼教フェスティバル」参加（親子自由参加・12月）を行いました。

加えてこれらの行事などへの参加とは別に、大学教育・研究との連携を図ることとして、大学・文学部に新たに設置された「教育・心理学科」学生のボランティア参加、及び短期大学部幼児教育保育科教員による研究を兼ねたボランティア参加を得ました。

#### ②教員研修の実践

日常の保育実践に不可欠な研修として以下のような研修会に参加研鑽を行いました。京私幼連盟城南地区主催研修会（年8回）、京私幼連盟特別研修会及び研究大会、京都府・幼稚園教育課程研究協議会、宇治市公立幼稚園教員研修会、京都仏教幼稚園協会研修会、大谷保育協会研修会、その他の管外研修・研究大会に参加し、園内研修においてそれぞれの成果を教職員で共有しました。さらに、経験年数に応じて教育職員は免許上進のための講習講座を受講しています。

また新たに発足した「免許更新制度」実施に伴い、当年度該当者について「更新講座」受講を促し、必要単位習得による更新を完了しました。

#### ③特別支援保育に対応

特別支援を要する幼児について、専門機関と連携しながら、必要に応じて加配的に教員を配置して個別の対応を行いました。教員加配については行政からの援助を得ています。

当年度新たに実施された京私幼連盟「私立幼稚園キンダーカウンセラー派遣事業」に応募し、カウンセラーによる園児観察を行い、事後、職員の特別支援に関する研修会を2度にわたって実施しました。

### 子育て支援について

#### ①「預かり保育」の実施

本園では保護者の要請により、通常保育時間外の一定時間に在園児の「預かり保育」を実施しています。当年度は一部を4月から開始し、延べ1,138名の利用者がありました。

#### ②「子育て相談室」の開設

京都府子育てサポートセンター事業の一環として、より専門的に子育て・教育相談に応じる態勢を整え、月1回のペースで園長による相談室を開室しました。大学との連携のもと、子育て相談の体制を整える計画ですが、日程、場所など、若干の課題を残す結果となりました。

### 幼稚園開放・安全管理について

#### ①生涯学習への取り組み

幼稚園の場を市民に開放する目的で、また「子育て支援」の一環として「大谷幼稚園開放セミナー」を従来から大学の協力を得ながら開催しています。当年度は園舎建て替え計画などの事情により開催が制約されましたが、3学期に2回実施しました。

#### ②実習生などの受け入れ

大谷大学短期大学部幼児教育保育科第2学年と文学部教育・心理学科第3学年の学生の幼稚園教育実習を受け入れました。また、中学生による「保育体験」として、木幡中学校の生徒が本園を参観見学しました。



(2011年12月に竣工した新園舎棟)

## Ⅲ 財 務 の 概 要

### 1. 2011（平成23）年度決算について

本学園の会計は、文部科学大臣の定める基準（学校法人会計基準）に従って会計処理を行っており、公認会計士による監査・指導を定期的に受けて処理されております。また、計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表）を作成し、毎年決算承認後、文部科学大臣及び京都府知事に届け出ています。なお、学校法人会計基準による様式は補助金交付の観点からの表示区分となっているため、一般の企業会計による計算書とは異なっています。

#### 資金収支計算書

資金収支計算書は、その年度の教育研究等の諸活動に対応する資金の収入と支出のほか、その年度内において現実に収納し、また支払った資金の収入と支出について、その顛末を明らかにするものです。したがって、資金収入には、授業料や入学検定料、寄付金、国や地方公共団体からの補助金のほか、次年度の授業料等の前受金なども含まれます。資金支出には、人件費や教育研究にかかる経費、学生生徒等募集・広報など管理部門にかかる経費、借入金返済支出、施設関係支出、設備関係支出などが含まれます。

2011(平成23)年度 資金収支計算書		2011(平成23)年4月1日～2012(平成24)年3月31日		(単位:千円)
収入の部		支出の部		
学生生徒等納付金収入	5,280,400	人件費支出	4,287,578	
手数料収入	151,642	教育研究経費支出	1,532,396	
寄付金収入	443,321	管理経費支出	566,510	
補助金収入	1,081,763	借入金等利息支出	23,930	
資産運用収入	190,998	借入金等返済支出	127,760	
資産売却収入	7,500	施設関係支出	437,410	
事業収入	127,662	設備関係支出	175,513	
雑収入	275,051	資産運用支出	875,480	
前受金収入	933,217	その他の支出	176,455	
その他の収入	446,525	資金支出調整勘定	△252,304	
資金収入調整勘定	△1,289,690			
前年度繰越支払資金	9,367,365	次年度繰越支払資金	9,065,023	
収入の部合計	17,015,750	支出の部合計	17,015,750	

#### 資金収支の概況

資金収支計算書について概要を説明いたします。

2011（平成23）年度の、収入の部合計から前年度繰越支払資金を差し引いた収入額は、76億4800万円（百万円未満四捨五入・以下同じ）、支出の部合計から次年度繰越支払資金を差し引いた支出額は、79億5100万円となりました。

収入の部では、学生生徒等納付金収入が前年度比0.1%増の52億8000万円となりました。手数料収入は、志願者数の減により前年度比16.1%減

の1億8100万円となりました。寄付金収入は、雲井昭善・大谷大学名誉教授から奨学金設立を目的とした2000万円のご寄付、また九州大谷短期大学の記念事業に際し関係者の皆様から多大なご寄付をいただいたことなどにより、4億4300万円となっています。補助金収入は前年度比2.2%増の10億8200万円となり、資産運用収入は前年度比3.4%減の1億9100万円となりました。資産売却収入は大谷大学学外施設の売却により800万円となっています。事業収入は、公開講座の受講料や受託研究、共同研究、職業訓練生受入などの受託事業収入を含めて、1億2800万円となりました。その他の収入には、施設整備等に必要な資金を積立金から繰り入れた収入などが含まれており、4億4700万円となっています。

支出の部では、人件費支出が前年度比2.9%増の42億8800万円となりました。これは退職者数（退職金）の増などによるものです。学生生徒園児の皆さんの教育研究及び学校生活に関わる教育研究経費は、前年度比4.8%増の15億3200万円となっています。管理経費は、前年度比2.6%減の5億6700万円となりました。この中には、総務、経理や広報に関する経費などが含まれています。施設関係支出では、大谷大学の博綜館・講堂棟トイレや貫練学寮・自灯学寮の改修などに3700万円、九州大谷短期大学の本館改修工事などに1億2400万円、大谷中・高等学校の空調設備工事に100万円、大谷幼稚園の園舎新築工事などに2億7500万円を支出しています。設備関係支出1億7600万円には、大谷大学のネットワーク機器、九州大谷短期大学の電話交換機、大谷中・高等学校の図書館用机・椅子、大谷幼稚園の新園舎用機器備品などのほか、各学校の図書館に所蔵する図書の購入費が含まれています。資産運用支出では、将来の校舎の整備や教育研究に使用する機器の更新などのために8億7500万円を積み立てています。

#### 消費収支計算書

消費収支計算書は、授業料や寄付金など負債とされない収入（帰属収入）と、施設・設備関係の減価償却額や資産の除却額などを含む、その年度

に消費する支出（消費支出）との内容及び均衡の状態を明らかにするものです。すなわち、その年度の負債以外の収入と、人件費や諸経費などのいわゆるコストを比べ、バランスが取れているかを見るためのものです。

教育研究を提供する学校法人は、学校を永続的に維持する責任がより一層求められています。そのためには、資金収支の整合性が取れているだけでなく、帰属収入から必要な資産を継続的に保持するために組入れる基本金への組入額を引いた額（消費収入）と、消費支出とのバランスを見ることによって、当該年度だけでなく、将来的な財政の健全性を見ることが重要になってきます。この点、資金収支計算書に比べ消費収支計算書は、長期的な観点をもっているものといえます。

消費収入の部		消費支出の部	
学生生徒等納付金	5,280,400	人件費	4,211,010
手数料	151,642	教育研究経費	2,280,302
寄付金	463,403	(うち減価償却額)	(745,880)
補助金	1,081,763	管理経費	595,994
資産運用収入	187,079	(うち減価償却額)	(29,113)
事業収入	127,662	借入金等利息	23,930
雑収入	279,100	資産処分差額	53,546
		徴収不能引当金繰入額等	1,832
		消費支出の部合計	7,166,614
帰属収入合計	7,571,049	当年度消費支出超過額	287,772
基本金組入額合計	△692,207	前年度繰越消費収入超過額	3,374,681
消費収入の部合計	6,878,842	翌年度繰越消費収入超過額	3,086,909

### 消費収支の概況

資金収支計算書と重複する項目を除いて説明します。

収入では、寄付金の中に、金額換算した現物寄付 2000 万円が含まれています。この中には、大谷大学教育後援会から寄贈していただいた、教室 AV 設備なども含まれています。帰属収入の合計は前年度比 0.3%増の 75 億 7100 万円となりました。

支出では、減価償却額が、教育研究経費に 7 億 4600 万円、管理経費に 2900 万円含まれています。また、大谷幼稚園旧園舎・仮設園舎や、各学校の古くなった備品などを処分しましたので、資産処分差額として 5400 万円ほどの支出になっています。消費支出の部合計では前年度比 1.9%増の 71 億 6700 万円となりました。

当年度消費支出超過額は 2 億 8800 万円となり、翌年度繰越消費収入超過額は 30 億 8700 万円となりました。

### 貸借対照表

学校法人の目的である教育研究活動を達成するためには、膨大な施設や設備など各種の運用財産を必要とします。貸借対照表は、これらの財産の保有状況を表し、教育研究に必要な財産が適正に維持管理されているかを示すものです。この貸借対照表はその意味で重要であり、消費収支計算書とともに長期的な観点を持つものといえます。

ここでの資産は、保有する土地、建物、現金預金などを示し、負債とは、借入金や退職給与引当金など、いずれ支出となっていくものを示します。基本金は、学校法人が必要な資産を永続的に維持するために、帰属収入のうちから組入れたものです。この基本金と消費収支差額の合計が正味財産となります。

資産の部		負債・基本金・消費収支差額の部	
固定資産	40,303,012	固定負債	2,818,726
土地	8,949,970	長期借入金	899,890
建物	11,595,300	長期未払金	70,271
構築物	396,422	退職給与引当金	1,848,565
教育研究用機器備品	465,613	流動負債	1,384,893
その他の機器備品	32,122	短期借入金	127,760
図書	3,877,958	未払金	240,651
車輛	3,101	前受金	933,217
建設仮勘定	123,197	預り金	83,265
電話加入権	3,443	負債の部合計	4,203,619
施設利用権	712		
敷金	1,630	第1号基本金	37,696,118
預託金	153	第2号基本金	3,500,000
長期貸付金	60,214	第3号基本金	626,091
引当資産	14,793,176	第4号基本金	550,000
流動資産	9,359,727	基本金の部合計	42,372,210
現金預金	9,065,023		
未収入金	261,145	翌年度繰越消費収入超過額	3,086,909
貯蔵品	9,986	消費収支差額の部合計	3,086,909
仮払金	4,569		
前払金	16,641		
立替金	2,363		
合計	49,662,738	合計	49,662,738

### 貸借対照表の概況

資産の総額は、496 億 6300 万円で、前年度に比べて 1 億 8900 万円の増加となりました。内訳は、土地、建物、備品、図書及び引当資産などの固定資産が 403 億 300 万円、現金預金などの流動資産が 93 億 6000 万円となっています。

負債の合計は、42 億 400 万円で、前年度に比べて 2 億 1600 万円の減少となりました。内訳は、退職給与引当金などの固定負債が 28 億 1900 万円、未払金や前受金などの流動負債が 13 億 8500 万円となっています。

基本金は、423 億 7200 万円となり、前年度に比べて 6 億 9200 万円の増加となっています。

## 2. 経年比較

